

学校外での子供の多様な学びに関する 有識者会議

第2回資料

第1回有識者会議での主な議論

○学校外での多様な学びの場の創出に向けた、今後の検討の方向性についてご議論いただいた



**子供たちを支える学校外の学びの場・居場所の創出に向け、
フリースクール等の民間施設や支援団体への現地ヒアリングを通じて、
後押しすべき方策のあり方を検討**

第1回有識者会議での主な議論

議事要旨（抜粋）

- ✓ 不登校の子供が通う民間施設は、**彼らにとって大切な居場所であるということを前提に、どのように支えていけるのかを考えるべき。**
- ✓ 将来**社会に出るための知識**や、**人とつながって生きていける資質**を学び、育てていく、そのサポートをしていくことが必要。
- ✓ 居場所はとても大事だが、人だけでなく、**好きなものやわくわく、作る楽しさの喜びが疲れた心を癒すこともある**のでは。学びと居場所の観点を分けることは大事だが、完全に切り分けられるものではないという観点も大切。
- ✓ フリースクールを子供が利用する場合でも、**行政・学校がそれをしっかり把握し、事業者とコミュニケーションをとりながら、子供と一緒に育む視点を持つべき。**
- ✓ すでに**民間が担っている機能も社会的に認め、応援しながら、新たな形を作っていけるとよい。**

1

学校外における多様な学びの充実 に向けた支援のあり方について

事例 1 のびーくフリースクール (練馬区)

スクール概要

- ✓ 小学生から中学生までを対象とした在籍児童生徒数20人規模のフリースクール
- ✓ 子供の状況に合わせて利用頻度を選択できるように、週2日コース・週3日コース・週5日コースの3つのコースを設置
- ✓ 多彩なゲスト講師によるプログラムやテーマを決めて実施する探究学習のほか、子供たち自身が企画書を作成して計画した活動を実施



1日の流れ（例）

- ✓ 午前中は、主に**実験や工作等の体験プログラム**を実施
- ✓ 午後は、**子供同士の関わり合いの中で社会性を育む時間**や**個人課題に取り組むための時間**を確保
- ✓ 毎週水曜日は、月ごとに決めたテーマに対する**探究学習を集中的に実施**



	月	火	水	木	金
午 前	わくわく発見プログラム ※1	あそびーく※2	テーマ探究！ のびーくプログラム ※5	わくわく発見プログラム	
午後①	みんなで創る！のびーくタイム※3			みんなで創る！のびーくタイム	
午後②	じっくり個別タイム ※4	—	じっくり個別タイム	—	じっくり個別タイム

※1 興味・関心のタネをまく体験プログラム

※3 自由な発想で好きなことを思いっきり楽しむ時間

※5 月間テーマを決めて探究する時間

※2 公園や児童館・のびーくハウスで思いっきり遊ぶ時間

※4 個別学習やひとりでじっくり取り組む活動

のびーくの探究学習

- ✓ 社会課題に「見て！触れて！感じて！」をテーマに探究学習を実施
- ✓ テーマに関連した施設の訪問や地域での体験活動を実施することで、実体験を通じた学びを実現



最近の取組テーマ

①「ごみ」に関する探究学習

- Step1 地域のごみ拾い活動
- Step2 清掃工場等の見学
- Step3 トークセッション



②「防災」に関する探究学習

- Step1 防災館での体験活動
- Step2 トークセッション
- Step3 避難訓練の実施



①『ごみ』に関する探究学習

Step1 地域のごみ拾い活動

- ✓ スクールに通う子供たちで、**地域のごみ拾いを実施**
- ✓ **チーム制で楽しみながら活動**する中で、まずは**身近なところにどんなゴミがどれくらいあるのかを知る**



Step2 清掃工場等の見学

- ✓ 清掃工場やリサイクル工場の見学を通じて、地域で排出されたごみの処理方法や、粗大ごみ・資源ごみのリサイクルの工程を学習



練馬清掃工場



練馬区資源循環センター

訪問を通じた感想

【清掃工場への訪問】

- ✓ 思ったようなニオイがなくてすごい
- ✓ もっと知りたいから、今度は自分で来ようかな

【リサイクル工場への訪問】

- ✓ （まだ使えるモノがたくさんあるのを見て）「もったいない」という声があがっていた
- ✓ ゴミの分別が大変な仕事なのがあった

Step3 トークセッション

- ✓ 見学で学んだ知識も踏まえて**トークセッション**を実施

トークセッションの様子

【テーマ①】プラスチックでないと困るものは？

- ✓ 「アレルギーがある人が困るから、プラスチックのアクセサリも必要」と、ファッションに興味のある子が、身の回りのことから考えて意見をあげていた。

【テーマ②】どんなごみ拾いだったら楽しんでできるか？

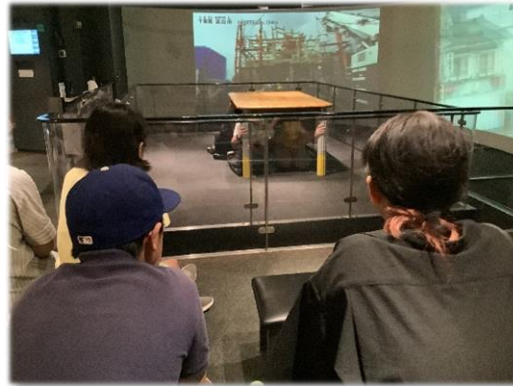
- ✓ 「有名人を呼ぶ」というアイデアや「ゴミを減らすのはその場ののぎにしかない。モノを使わない方法を見つけなければならないんじゃないか」という意見もあがった。
- ✓ 「今はまだ大丈夫なら、ぼくらには関係のない話」というリアルな声もあった。



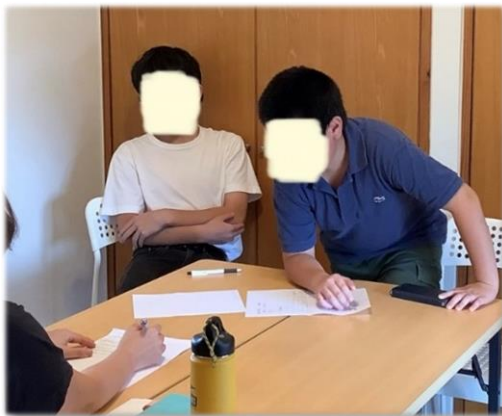
②『防災』に関する探究学習

Step1 防災館での体験活動

- ✓ 池袋防災館にて、地震・火災・水害など様々な災害を体験し、災害の怖さを身近に感じる



Step2 トークセッション



- ✓ 防災館での体験を踏まえ、フリースクール活動中に地震が起こった際の危険を予測し、子供たちで議論しながら、避難計画を作成

スクール概要

- ✓ 多世代型コミュニティカフェの中で、幅広い世代の方々と交流しながら過ごせる
- ✓ 地域コミュニティと連携した活動に力を入れている
- ✓ 演劇や工作などの創作活動を積極的に取り入れ、子供にとって居心地の良い場を創出
- ✓ 校長経験のあるスタッフが、子供一人ひとりに合わせて学習を支援



地域コミュニティとの連携

- ✓ 地域での農作業体験や、様々なイベントにて子供たちが製作した物を販売するなど、
地域コミュニティの中で子供たちが積極的に活動
- ✓ 地域における様々な体験活動の機会の中で、**子供たちの社会性を育成**

コミュニティ農園での
農業体験



夏祭りでの
お手製キャンドル販売



神社例大祭での
神酒所運営の補助



生活支援

- ✓ 調理活動や家事の手伝いなど、**他の子供たちと協力しながら取り組むことで、将来の日常生活に必要な力を身に付けるとともに、他者との協調性も育むことが可能**



調理活動の様子



家事手伝いの様子

定期的な発表会の実施

- ✓ 日頃の活動の様子や成果をコンサートや動画サイトを通じて発表



昨年度のコンサート的一幕



発表会の模様を動画サイトで発信

スクールの子供たちの声

- ✓ 自由に過ごせてご飯がおいしい。
- ✓ 晩ごはんの支度は、子供が沢山いるときは中々出番がまわってこないけど、他にやる子がいないときは餃子焼いたりお母さんよりうまくできた。
- ✓ お祭りの神酒所で、みんなにきゅうり配ったりして、色んな人と話をした。なくなる前にきゅうりをもらって美味しかった。
- ✓ コミュニティ農園のかき氷屋さんは、小さい子が沢山来てくれていて、何回かおかわりに来てくれる子も結構いて、すごく可愛かったし楽しかった。

保護者の声

- ✓ 勉強を教えてくれる先生をはじめ、スタッフやその場に集う大人たちが、その子その子にあった寄り添い方をしてくれ、時に、親とは異なる視点で話してくれるのがありがたい。母同士が、心をゆるめて悩みを話したり笑い合える場でもある。
- ✓ コミュニティ農園での活動では、子ども達が色々やりとりしながら自分たちで、考えて、文句を言ったりしながらも、一生懸命やる姿が可愛らしかった。
- ✓ 集団の中で学ぶことが親子共にあり、存在を認めてくれる、共に分かち合う、ご飯を一緒に作り食べる、仲間に出会えた。一人ひとりを受け止めてくれる貴重な場所だと思っている。

スクール概要

- ✓ 子ども発達支援専門員や看護師等の**専門資格を持つスタッフが在籍**しており、**子供の特性に向きあいながらのきめ細かな支援**を実施
- ✓ 工作や調理などの**体験活動**を通じて、**生活に必要な日常体験を取り入れる**ように工夫しているほか、**英語やプログラミング**などの多彩なプログラムも実施
- ✓ **家族支援**にも力を入れており、必要に応じて医療や療育など**他の関係機関との橋渡し**や、保護者向け勉強会の開催など**子供の特性の理解促進**に努めている



1か月の活動プログラム（例）

- ✓ スタッフと1対1の個別支援、4・5名の少人数支援、10名程度の活動を組み合わせ、参加したいプログラムを**子供自身が選択する形式**
- ✓ 年齢や特性を考慮し午前午後でクラス分けを行い、**参加者に合わせた手順書**を作成

	月	火	水	金
第2週	調理体験／ 自己理解※1	フリーデー※2 ／個別支援	チャレンジデー※3 (10名まで)	プログラミング
第3週	工作体験／ 自己理解		課外授業	裁縫体験
第4週	—		工作体験	実験プログラム
第5週	英語で遊ぼう／ 自己理解		調理体験	調理体験

※1 養育カード等を用いて、自身の最近の感情やその理由をスタッフと振り返る

※2 プログラム等を用意せず自由に活動してもらう日

※3 活動人数を増やして、普段より多くの子供たちの中で過ごすことにチャレンジする日



▲調理体験の手順書

子供が作り方を視覚的に理解できるように工夫しながら作成

活動の様子

調理体験

生活に必要な日常体験を取り入れながら実施



裁縫体験



ガーゼハンカチづくり

実験プログラム



カビの培養実験



線香花火作り

個別支援



保護者も一緒に活動可能

親子イベント

保護者も含めた交流を通じて、子供の活動の幅を徐々に広げる



餅つき大会



バーベキュー大会

課外授業

移動距離も少しずつ伸ばし
スモールステップを踏む



バスの乗車体験



いちご狩り

地域との交流

- ✓ 家族以外の社会から認められる経験が、子供にとって大きな自信になるという考えから、
地域との交流イベントを企画・運営
- ✓ 地域の方にフリースクールの活動を知ってもらう良いきっかけにもなる

レインボーマーケット（フリーマーケット）の企画・運営



- ✓ 輪投げなどの遊び、スライムづくりなどの工作、ハンドメイド作品やクッキーの販売など、様々な催しを子供たち自身が実施
- ✓ チラシ作りなどの準備作業も子供たちで協力して実施
- ✓ 地域の方から「子供たちの対応が素晴らしい」「温かいイベント」「毎回楽しみにしている」等の多くの声あり

保護者の支援

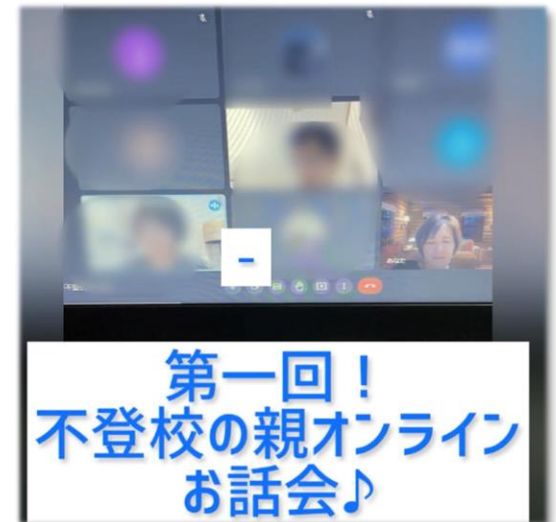
- ✓ 定期的に、保護者向けにテーマを設定した勉強会を開催し、保護者の子供の特性等に対する理解向上に努めている
- ✓ オンラインでのお話会や、LINE等を活用した**日々の個別相談**を実施。**悩みを抱える保護者を積極的にサポート**



児童精神科医による保護者勉強会



保護者向けの情報交換会



オンラインお話会

スクールの子供たちの声

- ✓ レインボーのフリマは全部が楽しかった。スタッフのみんなやお友達もみんな優しくしてくれて1日楽しく過ごせました。
- ✓ 自分の担当のお店だけではなくて、色々なお店を手伝ったり、遊んだことが楽しかった。
- ✓ 1回目より、2回目の今回が楽しかった。来てくれた学校の友達とも一緒に過ごせたのは本当に嬉しかった。だんだん、楽しくなる気がする。
- ✓ お菓子釣りの子供スタッフをやりました。すごく楽しくてお客さんもみんなニコニコしていて楽しかったです。レインボーは僕の大事な居場所です。
- ✓ 自分で作ったクッキーが全部売れて嬉しかったし、達成感がすごい。

保護者の声

- ✓ 勉強会でスタッフさんたちや他の保護者の方々のお話を聞けて、とても励みになりました。また、発達障害の子供達の直面する課題に対する理解が深まり、具体的にどのように支援していったらよいのか教えていただいて、助かっています。
- ✓ 毎回様々な角度から子供達の困り感、保護者の不安に寄り添った内容の勉強会で、とても有り難いです。また、不登校や発達凸凹などの生きづらさを抱える子供の親同士のコミュニティの場としての役割もあり、共に寄り添い、学べる仲間がいることで、親自身が不必要な不安を抱えずに、日々我が子と向き合える糧になっています。

事例 4 Gifted Online Homeroom

団体の活動概要

- ✓ 才能や認知発達の特性等がゆえに、**学習上・生活上**で困難を抱える子供たちへの支援活動を実施
- ✓ 子供の興味関心や特性に合わせて人と人とをつなぐことが可能であるため、**オンライン上での活動を中心に、子供たちの居場所づくりを支援**
- ✓ **当事者や保護者、教育関係者**等を対象に、定期的に**オンラインでのイベント**を主催する他、**外部とも連携しながら、リアルでの交流イベントを実施**
- ✓ 2022年7月から活動を開始し、保護者を含め、**延べ約600名が活動に参加**



ギフテッドのリアルについて
対談を通じて伝えるオンラインイベント
GOH(Gifted Online Homeroom)と他団体との共催

学生団体との連携イベント

- ✓ 「東工大ScienceTechno」と連携して、日本科学未来館で工作教室を開催
- ✓ 「『光』の謎に迫る」をテーマに、偏光万華鏡の作成を通じて、光の原理を学ぶ
- ✓ GOHの取組に参加している幼稚園児から中学生までの18名が参加
⇒実施に当たっては、このような特性等を持つ子供たちが参加しやすいように、配慮・工夫を行ってイベントを実施



東工大ScienceTechno (サイテク)

東京工業大学の公認サークル。子供たちが科学を楽しむことを通じて、理工系分野に興味を持つきっかけをつくることを目的に活動。学校や科学館などの様々な場所で、工作教室やサイエンスショーの企画・運営を実施。

参加者からの声

- ・ **自身の知らない内容により知的好奇心が刺激された**ようで、とても楽しかった様子
- ・ 一斉方式では無く、**学年別の少人数の卓ごとに講師係の方が入って下さった事**、マニアック過ぎず、実年齢以上の学びが出来るように工夫された**資料や内容に随時きめ細やかな配慮を感じた**
- ・ 親を頼らずとも、東工大の方や周りの子と**コミュニケーションを自ら発言**できており、親として**子供自身の成長を感じる事ができ、とても嬉しく思った**
- ・ **プログラムの後に子供達や保護者が集まって自由参加で何かできるような時間がある**と嬉しい

学校外での子供の多様な学びを
充実させていくためには、
どのようなアプローチが考えられるか？